

令和6年度 第3回「地域連携担当者」等新任研修 開催報告

- 趣旨 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 主催 滋賀県教育委員会
- 対象 県内「地域連携担当者」等新任研修受講者
- 日時 令和6年10月22日（火）13:30～16:30
- 会場 滋賀県庁 新館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
オンライン（Zoom）併用による開催
- 内容 (1) 事例紹介
 - ・長浜市立湯田小学校 教諭 宮部 允良 氏
 - ・湖南市立日枝中学校 教諭 山本 愛 氏
 - ・滋賀県立新旭養護学校 主幹教諭 渡辺 抄織 氏（社会教育士）(2) グループ別情報交換 テーマ「地域資源の活かし方、つながり方」
(3) 閉講式
- 参加者数 119名（事例紹介3名、会場参加28名、オンライン参加88名）
- 事例紹介の概要



○長浜市立湯田小学校

「湯田小フェスタ」という大きな行事を毎年続けていくための「校内の仕組みづくり」や「地域とのつながり方」等についてわかりやすく教えていただきました。単年計画の取組ではなく、10年後、20年後の地域の未来を担う「人」を育てるといふ、人材育成をねらいとした取組が大切であると教えていただきました。



○湖南市立日枝中学校

中学生が主体的に地域のイベントに参加している事例について御紹介いただきました。小中のつながり、地域とのつながりを大切にされ、主体的に参加する仕組みづくりについてお話いただきました。主体性を育むためには、小学生の頃から、地域で活躍する中学生や地域の方と触れ合う機会を設けることが大切であるということをお話いただきました。



○滋賀県立新旭養護学校

どのように地域資源を知り、どのように地域とつながっていけばよいか、御自身の実践をもとに、具体的に御紹介いただきました。また、学校運営協議会での熟議を通して、様々な立場から子どもたちや地域のことを一緒に考え、みんなが一つになって学校を作り上げていくことの大切さについて教えていただきました。



9 参加者のアンケート・情報交換の記録より（抜粋）

【事例紹介① 長浜市立湯田小学校】

- ・『湯田小フェスタ』のような取組をぜひ取り入れてみたいと思いました。地域と共に学校を盛り上げておられることが魅力的でした。地域の様々な人と子どもをつなげていくことは大切なことであると改めて感じました。
- ・10年後、20年後の地域を支え、未来を担う人を育てるという学校と地域同一の目標を設定し、それぞれができることを考えておられました。楽しんで終わりの活動ではなく、未来に強くつながっていく活動だなと感じました。
- ・キャリア教育を行っていく上で、地域や家庭、それぞれの持ち味を發揮し、協働できているところが楽しそうで素敵だなと感じました。身近な地域の方の仕事や人となりを知ることができ、またそのつながりや出会いが地元を愛する気持ちを育てていくのだろうなと思いました。
- ・『におねっと』の活用、チラシの工夫等に加え、人とのつながりを深め、広げていくことで、新しい力添えが生まれることを感じました。継続・連続とは、そのままの形を続けることではなく、改善、深まり、広がりを加えていくことだと感じました。

【事例紹介② 湖南市立日枝中学校】

- ・すべてを初めて取り組むのではなく、今ある活動や取組に子どもが自分事として参加できる仕組みを考えていくことから始めてみればよいということを学ばせていただきました。
- ・生徒自身がボランティアに関わることにより、人のために役立っていると感ずることができ、目指す姿に近づいていると感じました。
- ・中学生が企画から取り組んで運営しているのがよかったです。小・中のつながりもあり、地域の人のつながりが大切にされていることがわかりました。
- ・中学校と小学校と地域が上手につながって活動している事例を知ることができました。地域の中で子どもたちを育てていくことの大切さを学びました。
- ・小学校での地域行事への参加経験が、中学校でのボランティア参加の意欲につながるというお話にとても共感できました。

【事例紹介③ 滋賀県立新旭養護学校】

- ・他校との関わりを大切にされ、子どもたちの学びになっている様子がわかりました。花販売も、キャリア教育につながっていてよかったです。学校同士の連携もすばらしかったです。市と取り組まれた防災の日もとてもよいものだと思います。
- ・養護学校という特色を生かしながら地域と連携して子どもたちを育てていること、そのために学校運営協議会を上手に活用していけばよいことがわかりました。
- ・今まで行ってきた地域への訪問や販売等の活動がコロナ禍で今までと同じように行うことが難しくなったというお話がありました。その場合にも、子どもたちの姿に合わせ、どんな活動に変化させていくとよりよい学びになるのかと、ピンチをチャンスに捉えて活動の形を変えて取り組まれている様子から、本校の場合ならどうだろうと、考えるきっかけをいただきました。
- ・担当者としての心構えを知ることができました。

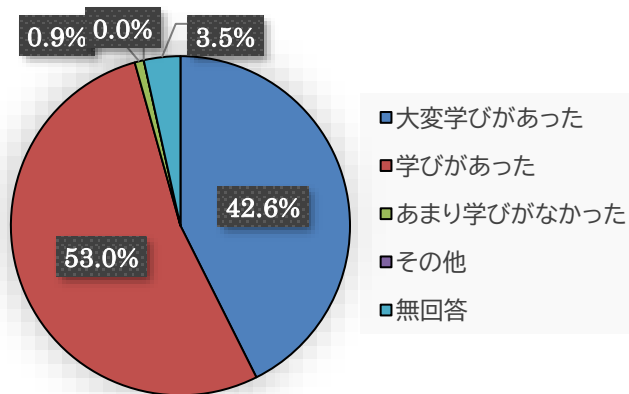
【グループ別情報交換】

- ・校種間の交流ができたことが新鮮でした。小・中・高と学区が広がると地域との関わり方も大きく違うことがわかりました。それぞれのよさをどう活用していくか、考えを交わすことができました。また、子どもたちの発達段階に応じて、地域の方からの学び方も変化することを感じました。
- ・取組の紹介だけでなく、困りごとや、今後大切にしたいことなどについても話し合いができたことがよかったです。地域の方に学校に来てもらうだけでなく、地域にもっと出ていくことも大切だと知ることができました。地域の方を含めて様々な人との関わりの中で子どもたちの成長があるのだと改めて思いました。

- ・学校をよくしたいと思ってくださっている方はたくさんいてくださるということを改めて再確認できました。子どもたちと地域の方をいかにつなげていくのかという視点をもって取り組みたいと思いました。
- ・小中だけでなく、高校の先生方とも交流し、9年間の義務教育だけでなく、その後の展望も掘みながら検討することができました。子どもの主体性を育てながらよりよい活動を行いたいと思います。
- ・子どもたちが小中で地域の方々とのどのように関わってきたのかが、高校での地域との関わり方に大きな影響を及ぼすと気づきました。今後は、近隣の小中学校との連携を図りながら、長期的な視野での地域連携を目指していきたいです。
- ・それぞれの学校の取組を知ることができ、どこから取り組むべきか悩んでいた「教育課程に取り込むためのコツ」を教えてくださいました。また、地域から学ぶことはできているが、「地域にどのように返していけるのか」を考えていたので、悩みを共有し、共に考えることができたことも有意義でした。子どもから地域へ返すとともに、学校職員からも地域に返していける（ともに活動していける）ように、学校運営協議会や地域コーディネーターの活動を広めていきたいです。
- ・それぞれの学校の取組を聞き、学校に合った地域との連携を進めることがベストだと思いました。自分の学校や地域を改めて見直し、その上でどう進めていくのかを考えるきっかけになりました。高校や中学校で生徒が主体的に取組を進めている様子を知り、具体的な目指すものを提示することで、主体的に進めていくことができるということを感じました。1時間があったという間に過ぎるほど話が尽きず、有意義な情報交換の場となりました。
- ・様々な校種間での交流でしたが、理想と現実についてそれぞれ感じることを話し合い、自分の学校でできることを考えることができました。同じグループの先生が言うておられた、「地域の方とのつながりを通して、子どもが自分の町を知り、これからもずっと住み続けていきたいと思えることが大切。」という意見を聞き、私も地域の方との交流を通して、子どもがより自分の町を知り、好きになれる学習をしていきたいと考えました。地域の方も教員も持続可能な活動を続け、子どもの育ちをサポートしたいです。
- ・それぞれの校種の先生方のお話を聞かせていただくことができとても参考になりました。地域連携担当者として悩んでいることもほぼ全員が同じでした。地域コーディネーターの存在はどの地域でもとても大きなものですが、その後継はどうなるか、いかに持続可能なものとしてやっていくかはどの学校でも大きな課題だと思います。教員は異動があるので、学校だけでその役を担うことは難しく、また、地域との連携が管理職や地域連携担当者など、一部の教員にとどまってしまう傾向もあるので、いかに教員へこれを広げていけばよいか課題だと思いました。



(1) 地域連携の取組にかかる事例紹介について



(2) グループ別情報交換について

